

# わかやま

No.28

和歌山県精神保健福祉センターだより 2006年7月

## 「日精看支部長に就任して」

社団法人日本精神科看護技術協会和歌山県支部長 中林 正良

はじめまして、「ニッセイカン（日精看）」和歌山県支部の中林です。宜しくお願いいたします。

まずはじめに、今回ご縁を頂き寄稿の機会を与えて頂き感謝申し上げます。過去には立派な先輩諸氏が沢山おられたはずなのに何故私が、、、と思いながら四苦八苦しているところです。

皆さん、「ニッセイカン」ってご存じでしょうか。社団法人日本精神科看護技術協会を略して「ニッセイカン」と呼んでいます。この団体は精神科領域で働く看護職員や精神科看護に関心を持っている看護職の職能団体で、全国に都道府県支部があり専門技術・職業倫理の向上を図るとともに、精神障がい者の社会復帰および精神保健福祉の普及をめざしています。また、精神科医療の充実を図るために政策提言も行っています。

主な活動内容は教育・研修、精神保健福祉活動としての『こころの日』の催し、福利・厚生、機関誌の発刊等があります。

当支部は約450名の会員で各委員会が計画した事業を行っており、7月1日の「こころの日」の特別講演は「うつ病について」という演題で北端精神保健福祉センター所長さんにしていただきました。

さて、ご承知のとおり医療観察法、自立支援法をはじめ医療法、医療制度改革法、保健師助産師看護師法の改正等々精神保健福祉を含め医療・看護界の変化は本当に厳しくなっています。（医療費の適正化ということとはよく理解できるが、本当にそうなのか。もっと他に優先して問題解決することがあるはずだ！）

さらに今回の診療報酬改定は病院運営に大きく影響するものも多く、厳しい状況となっています。特に看護関係では実際に看護を提供した実数を出すことが算定要件になり、どの施設も人員確保に苦慮していると思いますが、反面、喜ばしいことだと思っています。それは入院患者さんひとり一人に内容の濃い（質の高い）看護をいかに多くの時間を提供しているかが評価できるようになってきたからです。

また、新世代薬の導入による薬物療法の概念の変化により看護のあり方も変わっていく必要があります。

このような中、何をすればよいのか分からず悩んでいます。とにかく先ず「日精看」の存在を多くの方にも知ってもらい、他の職域の皆さん方とも交流を深めつつお互い連携、協力していければいいなあと思っています。

今後とも「日精看」活動にご協力とご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

### もくじ

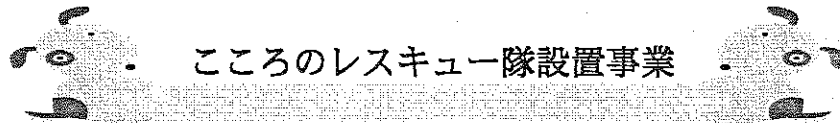
- P 1 日精看支部長に就任して
- P 2/3 こころのレスキュー隊設置事業
- P 4 「社会的ひきこもり」支援サークル「とらいあんぐる」誕生記
- P 5 メンタルヘルスニュース 所長のひとりごと
- P 6 はとふるネットワーク  
「精神障害者小規模作業所ハートツリーハウス 南 芳樹さん」  
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ「和歌山ビッグ愛」2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/050301/index.htm>



## こころのレスキュー隊設置事業

最近、地震や台風・大雨などによる災害、JR福知山線の列車脱線事故のような安心できる乗り物に乗車中の思わぬ大事故、池田小学校事件のような安心できる場での大事件などで命を脅かされるようなニュースや新聞記事を見聞することがよくあります。世間では、それらの災害・事故・事件による心的外傷後ストレス障害（PTSD）に象徴される「こころの健康危機」への関心が高まっています。

和歌山県では近い将来、東南海・南海地震が起こるだろうと言われています。地形的にも土砂災害や津波に遭遇するリスクは大きく、いつ何時そのような事象に遭遇するかわかりません。県では、災害などの危機的な状況による「こころの健康危機」に対して、災害・事故・事件時のこころのケア体制づくりが必要だろうということが話し合われ、「こころのレスキュー隊設置事業」を開始しました。県では、災害・事件・事故のうち、まずは池田小学校事件や山口県光高校爆発事件に代表される「学校危機対応」から取り組みを開始し、追って災害や地域での事故・事件に対する取り組みを行う予定としております。

では、『なぜ、学校危機対応なのか？』というと、①学校危機は東南海・南海地震などの大災害に比べてその規模は限定されているものの生起確率ははるかに高く、②危機の進展が非常に早く短期間に集中的な介入が必要であるということ、対象者が子どもであるということにより、技術的に困難性が最も高いと考えたからです。特に、発達段階にある子ども達の「こころの健康危機」を最小限に抑えることは、成長後のこころの健康の保持・増進にもつながると考えました。

「こころのレスキュー隊設置事業」は、次のとおりです。

### 1 事業内容

将来発生するおそれが高い東南海・南海地震等の重大な災害・事故・事件後の「こころのケア」に係る初期対応体制を整備するため、「こころのレスキュー隊」（和歌山県こころの緊急支援チーム）を設置する。

### 2 目的

- ① 災害や事故発生時などの「こころの健康危機」に対応できる体制を構築
- ② 「こころの健康危機」対応に実戦的経験を持つ者の育成
- ③ 「こころの健康危機管理」に係る関係機関との連携システムの構築

### 3 平成18年度目標

緊急時にこころのケア体制がとれるよう、県精神保健福祉センターを運営組織とし、医師・保健師・看護師・精神保健福祉士・臨床心理士などの専門職を登録対象とした、登録制の「こころのレスキュー隊」を設置

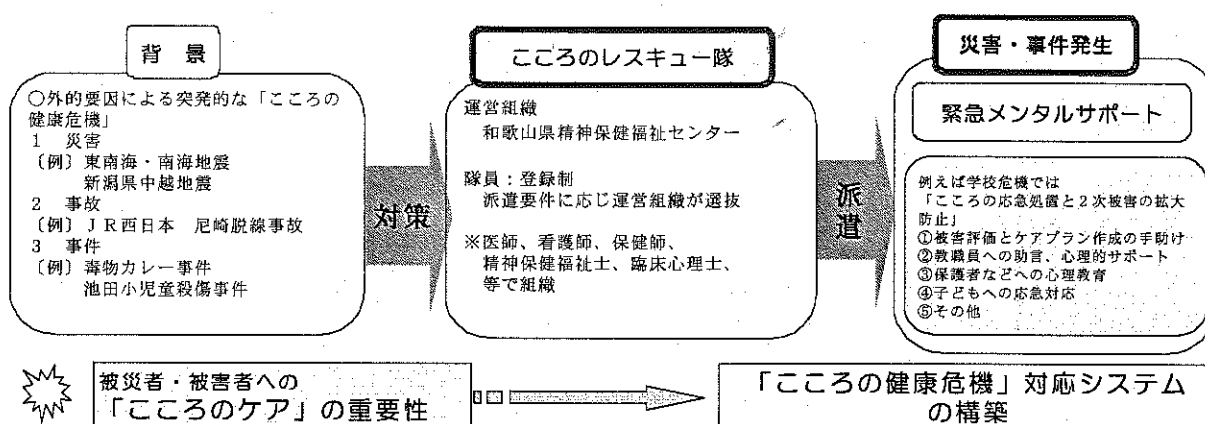
### 4 平成18年度事業概要

#### ① ワーキング委員会の実施

→ 事業実施要綱、研修計画、行動マニュアルの作成のための有識者によるワーキング

#### ② 「派遣ガイドライン及び行動マニュアル」策定

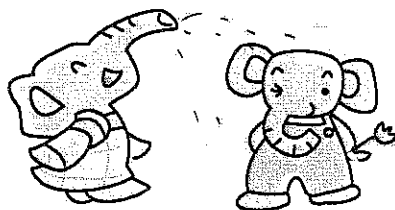
#### ③ 「こころのレスキュー隊」 隊員養成研修・実務研修



\*当面は学校危機への対応から開始し、地域での大事件・事故におけるメンタルサポート、災害時に貢献できる体制を目指す。

\*大災害発生に向けて、危機対応可能な人材の育成、対応ノウハウの蓄積、支援ネットワーク構築の一面を有する

この事業を通じて、教育関係や警察などの関係諸機関やメディアの方々と良好な連携が持てるようになると思っています。また、県民の皆様のこころのケアについての関心が高まることを期待しています。この事業は、関係諸機関の方のご理解とご協力がなければ達成できません。みなさまのご理解とご協力が得られることを切に願っております。



(文責 「こころのレスキュー隊設置事業」担当 精神保健福祉センター 尾崎)

このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。

## 社会的ひきこもり支援サークル

# 「とらいあんぐる」誕生記

平成18年4月、橋本市の片隅で、「とらいあんぐる」という小さなサークルが誕生しました。趣旨に賛同する、元教師・現教師9名で、沢山の不安を抱えながら、とにかく一歩踏み出しました。



退職したら何か社会の役に立つ事をしたいと思っていた人。ひきこもっている、かつての教え子がとっても気になる人。近所のひきこもり青年の家族への声掛けに日頃から悩んでいる人。不登校生の卒業後の公的サポート体制が少ない事が気になっていた人・・・等が集まりました。そして、市のひきこもりの現状はどうなんだろうか。自立へむけて、力になれることはないだろうかと勉強を始めました。平成16年11月の事でした。、テキストを読み話し合いを重ね、半年後ひきこもりの基本的な考え方を共通理解しあいました。

その間に、グループの名前を決めました。「本人・家族・支援者がお互いに響きあいコミュニケーションの取り合える関係を創り出し、好ましいハーモニー（自立への道）を生み出したい。」との願いをこめて「とらいあんぐる」と名付けました。

次の年の夏。保健所・県事務所・社協等関係各機関を訪問し、ひきこもりの現状やその対応等についてお話を伺い、必要な時は交流をお願いしました。又、ご活躍されている先駆施設であるエルシティオさん・麦の郷さんにおじゃまをして、たっぷりお話を聞かせていただいたり見学させていただいたりして、メンバーの士気は盛り上がって来ました。その後、保健所の方から、当地方の現状をご説明いただきそれぞれの立場と、交流の必要性を確認する機会をもてた事は、大きな励みになりました。

社会的ひきこもりに関する国の現状や対策を知りたくて参加した「全国支援者連絡交流会」での講演や若者たちのトーク・県精神保健福祉協会での秋田敦子先生の講演・田辺市での斉藤環先生の講演や地域の取り組みをお聞きし、大感動しました。そんな中から、おぼろげではありますが、自分たちの進むべき方向や、出来るであろう事柄が見えて来たように思い、心が熱くなった事を思い出します。

秋～冬にかけて、いよいよ立ち上げの準備。ポスター・パンフレット・趣意書等を作成し、開所のPRと協力をお願いをするために、関係諸機関や後輩の職場・知人等への配布を開始しました。その一方で、環境の整備を急ぎました。

パンフレットには、活動内容として、次の様に書きました。

### ① 相談支援

本人や家族だけで悩んでいても、なかなか解決出来ません。抱えている悩みをお話下さい。共に考えましょう。

### ② 居場所づくり

気軽に立ち寄って下さい。ゆっくりした気分でのんびりと過ごせる場を用意しています。

### ③ 外出サポート

思い切って外出したいけど・・・と言う時、声を掛けてください。ご一緒します。

### ④ ネットワークづくり

関係諸機関と連絡をとりあってより良い方向を探りましょう。

自分たちの出来そうなことを四つの柱にまとめました。

こうして、この春。やっと「とらいあんぐる」は産声を上げる事ができました。本当に多くの方々のお力をお借りしました。ありがとうございました。

開所後は、パンフレットを見て協力を申し出てくださる人。お花を届けてくださる人。「その後どう？」と心配してくださる人があり、温かい空気に包まれて、緊張の中にもホットなハートで青年やご家族と話しあったり、作業をしたりしています。

若い支援者の確保を当面の課題として、小さな小さな一歩を積み重ねて行きたいと思っています。へこたれず、方向を間違わずに歩み続けられるよう、今後も皆様のご助力ご指導よろしく願いいたします。



県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

### 社会復帰関連問題研修(ACT及びSST)

6月3日(土)に、ビッグ愛にて開催されました。午前中がACT(包括型地域生活支援プログラム)についての講義、午後がSSTについての講習を行いました。60名の方が参加されました。

### こころのレスキュー隊事業関連研修会

6月4日(日)に、子ども・障害者相談センターにて開催されました。山口県精神保健福祉センターの河野通英先生から「学校危機対応とこころのケア」というテーマで講演があり、関係者等91名の方が参加されました。

### セルフヘルプセミナー

6月25日(日)にビッグ愛にて開催されました。とちぎセルフヘルプ支援センター所長の高橋忠氏の講演と各自助グループの活動紹介、出会いミーティングが行われ、53名の参加がありました。

### 精神保健福祉関連初任者研修

精神保健福祉業務に従事して概ね5年以下の職員を対象に、6月28日(水)ビッグ愛にて行いました。医療機関職員12名、関連施設職員24名、行政職員14名の計50名が受講しました。内容は、精神疾患と障害の理解、自立支援法における障害福祉サービスと現行制度について、相談の受け方、精神障害者と人権でした。

### 精神保健福祉協会総会・こころのつどい

7月14日(金)ビッグ愛にて開催されました。総会の後、和歌山県子ども・障害者相談センターの小野善郎先生の記念講演がありました。「親と子のきずな～子どもたちの心に何が起きているのか～」というテーマで、約80名の参加がありました。

(主催：和歌山県精神保健福祉協会)

## お知らせ

### 精神障害者通所授産施設「あすなる共同作業所」開所

無認可小規模作業所として12年間活動してきた共同作業所「海南ワーク」は、この度新しい施設も完成し、精神障害者通所授産施設「あすなる共同作業所」になりました。

場 所：海南市阪井521

TEL：073-487-5560

### 名称変更のお知らせ

「社団法人 呆け老人をかかえる家族の会」は、6月8日に開催された2006年度総会において、「社団法人認知症の人と家族の会(略称：家族の会)」と名称を変更しました。

場 所：和歌山市岡山丁23

TEL：073-423-5711

### 「みかんの会」が出来ました

今年3月にピア下津作業所の当事者による「みかんの会」が生まれました。3月13日の初会合には沢山のメンバーが集い、会長を決めず、メンバー同士の支え合い、話し合いを行い、月1回のペースで会を開くなど、どういう会にしていこうかを話し合いました。

すでに3回の会合をもち、これからも地道に活動を続けていきたいと考えています。

### 思春期・ひきこもり相談

当センターでは、毎月2回専門医による特定相談を行っています。ご利用下さい。(要予約)

## 所長のひとりごと

みなさん、はじめまして。所長の北端です。

今号より「所長のひとりごと」のコラムを再開させていただきます。私は、野球は観ませんので、大阪のセリーグの某球団のことは一言もできません。悪しからず、ご了解お願いします。

今回は、私の好きな動物を紹介させていただきます。それは、犬でもなく、猫でもなく、マントヒヒでもなく、ペンギンでもなく、ましてやアルマジロでもなく、ウォンバットです。知っているひとは知っているが、知らないひとは全く知らないというオーストラリアの珍獣です。カンガルーやコアラの親戚で、モコモコした姿がかわいらしい動物です。我が家には全長1mのものを筆頭とし、7体のウォンバットのぬいぐるみが生息しています。ウォンバットの写真はインターネットで検索すれば見れるので、一度検索してみてください。一度みれば、気に入ること間違いなしです。

### ウォンバット(ヒメウォンバット)

目	有袋目
科	ウォンバット科
体長	70cm～120cm
尾長	0cm
体重	22kg～39kg
分布	オーストラリア南東部、タスマニア島、フлиндース島、
食べ物	草、草の根、樹皮等

### 主な特徴

丘陵地にすみ、単独で生活し、主に夜に活動します。コアラに近い種類といわれていますが、丈夫な手足、強いアゴ、大きな切歯を持ち、地下にトンネルを掘って生活しています。中にはトンネルの長さが数十メートルに及ぶものもあります。

「ウォンバット」とは、原住民であるアボリジニーの言葉で、「鼻が平たい」という意味であると言われています。日本では、「オオフクロ(大袋)モルモット」、「フクロアナグマ(袋穴熊)などとも呼ばれています。



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。  
今回は、精神障害者小規模作業所ハートツリーハウス職員 南 芳樹さんです。



## はーとふるネットワーク



### ー ハートツリーハウスでの勤務はどれくらいになりますか？

今年の2月に新卒としてハートツリーハウスの職員に採用となりました。まだまだ勤務期間5ヶ月の新米職員です。

### ー 相談員になられたきっかけは？

大学では福祉学科で主に児童福祉を専攻して学んでいました。去年の夏に縁あってハートツリーハウスのことを聞き、ひきこもりに関して関心を持ち、この仕事ならやってみたいと思い、職員になることを望みました。

### ー この仕事をしていて良かったと思う時はどんなときですか？

自分は新任でハートツリーハウスに来ました。もちろんはじめてお会いする利用者の方もあり、まず自分という人を知ってもらうことから始めました。5ヶ月が過ぎ、少しずつですが利用者の方との距離も縮まってきているかなという実感もできました。ある利用者の方から、「南さんと話が進んだので良かった」と言われたときに良かったなと感じました。

### ー 仕事で苦勞する点はどのようなことですか？

おれない心を持つことですね。ひきこもりに関してだけではありませんが、精神保健の分野では実に多種多様な問題や課題が次々とでてきます。その中で自分に出来ることは何なのか、どこまで関わる事ができるのかを判断するためにも自分自身がおれない心・信念たるものを持つことが大事だと考えています。しかし、これが非常に難しいんですよね。(泣)

### ー ハートツリーハウスのPRを一言お願いします。

スタッフは全員で3人です。まだまだ元氣いっぱいのパワフルな運営委員長と経験豊富で僕の師匠とも言える職員さんと若さで頑張る僕の3人で頑張っています。非常に働きやすい環境なのでとても居心地よくのびのびと働くことができています。

### ー サッカーがとても上手だとお聞きしていますが、休日はどのように過ごされていますか？

小・中・高とサッカーをしていたのでそこそこサッカーは出来ますがとても上手ではないので恐縮です。(笑) 休日は映画を見にいったり好きなジブリ作品(特にラピュタが好きです)のDVDを見返したりして過ごしています。またこれからはサーフィンを始めたいと思っているので誰か教えてください。(笑)

### ー 今後の抱負を教えてください。

自分はまだまだ精神保健の分野について勉強不足で、毎日が僕にとって教科書です。知りたいこと学びたいことはたくさんあります。これからも学びを深めていくことで、利用者の方の力になれるかと考えています。また、ひきこもりの問題について多くの人に理解を得ていただけるような活動をしていきたいと思っています。

### ー 南さんから、次の方のご紹介をお願いします。

同じひきこもりについて関わっておられる、共同作業所エルシティオの永井契嗣(ながいけいじ)さんを紹介させていただきます。

## 研修等のお知らせ

### ○ セルフヘルプ交流会

日時：H18年8月 8日(火) 9月19日(火)  
10月17日(火) 18:30～20:00

場所：和歌山県精神保健福祉センター  
対象：自助グループ活動をされている方、  
セルフヘルプ活動に関心のある方

### ○ ひきこもり訪問サポーター養成研修

日時：H18年8月18日(金) 28日(月)

場所：和歌山ビッグ愛  
対象：ひきこもり訪問サポーターになりたい方

### ○ ひきこもり専門研修(養成研修と合同)

日時：H18年8月28日(月)

場所：和歌山ビッグ愛  
対象：精神保健福祉関連従事者

### ○ こころのレスキュー隊養成研修会

日時：H18年9月12日(火) 13:30～15:30

場所：和歌山県子ども・障害者相談センター  
対象：関係者等  
講演：「災害・事故・事件を体験した子どもの心のケアについて」(仮題)  
講師：武蔵野大学人間関係学部教授 藤森 和美

### ○ 社会的ひきこもり家族のつどい

日時：H18年9月20日(水) 13:30～15:30

場所：和歌山県精神保健福祉センター  
対象：社会的ひきこもり者の家族

### ○ 思春期セミナー

日時：H18年9月22日(金) 13:30～15:30  
場所：和歌山ビッグ愛 1201会議室  
対象：医療・施設・教育等で子どもに関わる者  
定員：90名  
講演：「子どものうつ」  
講師：北海道大学大学院助教授 傅田 健三

### ○ こころの健康講座

日時：H18年10月3日(火) 13:30～15:30  
場所：有田振興局 3階大会議室  
対象：一般 定員：100名  
講演：「うつ病とはどんな病気？心の健康を保つためには」  
講師：和歌山県立医科大学神経精神医学教室教授 篠崎 和弘

### ○ 第3回精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会

日時：H18年10月4日(水)  
場所：和歌山ビッグホール  
共催：和歌山県作業療法士会・  
和歌山県精神保健福祉協会

### ○ 相談支援従事者初任者研修

(A日程) 日時：8月2日・3日・4日・9日・10日  
場所：和歌山県子ども・障害者相談センター  
対象：従来のケアマネ研修未受講者で相談支援  
専門員となられる方  
(B日程) 日時：8月2日・3日  
場所：和歌山県子ども・障害者相談センター  
対象：従来のケアマネ研修未受講者でサービス  
管理責任者となられる方

## 編集後記

サッカーの世界カップ(W杯)ドイツ大会もイタリアの優勝で幕を閉じ、次回は2010年、南アフリカでの開催となりました。皆様のご寄稿で『わかやま』の発行を続けておりますが、4年後も当紙面で話題にできますよう、ご協力をよろしくお願い致します。